PRESS RELEASE

人と社会を支える力
国士舘大学
Kokushikan

2025 年 6 月 6 日

報道関係者各位

国士舘大学の学生が
東京都の「TOKYO 空き家活用魅力発信プロジェクト」に参加
奥多摩町の空き家の
リノベーションデザインを提案
選定後は移住・定住用住宅に改修・活用

現地調査の様子
＝5 月 2 日、奥多摩町

国士舘大学理工学部（東京都世田谷区）建築学系・南泰裕研究室の学生約 10 人（4 年生と工学研究科の大学院生）は、東京都が「2050 東京戦略」事業の一環で進める「TOKYO 空き家活用魅力発信プロジェクト」に参加している。このプロジェクトは、複数の大学が都内の空き家を対象にリノベーションデザイン案を作成し、都と地元自治体が審査するというもの。国士舘大学は奥多摩町の空き家を担当。今後、7 月に行われる審査を経て、選定されたデザインを元に空き家を改修し、移住・定住用住宅として活用していく。

◆東京都「TOKYO 空き家活用魅力発信プロジェクト」の背景と概要

東京都にある約 90 万戸の空き家の中には、不動産市場で流通せず長期間利用されていないものもある。特に西多摩・島しょ地域では活用事例が少なく、プロジェクトではこうした空き家を地域資源として生まれ変わらせることで、東京都の活性化を図る。時間・コストをかけない、地域とのつながりを創出するなど、知恵や工夫を凝らすことでリノベーションができることを実例をもって示し、自治体の移住・定住施策の推進につなげる。

具体的には、奥多摩町および新島村が所有する空き家 3 物件について、都内 4 大学（国士舘大学、東京大学、東京都立大学、法政大学）や若手・中堅の都技術職員が知見と技術力を結集させ、リノベーションデザイン案を作成する。

今年 7 月に地元自治体と協議の上、デザインを選定し、その後は都が設計・施工。令和 7 年度中の完成を予定

しており、令和 8 年度には自治体の移住・定住用住宅として活用する予定である。
　一連の過程は動画で公開し、空き家活用の魅力を発信していく。

◆国士舘大学の担当と今後のスケジュール
　意匠デザインを学ぶ国士舘大学理工学部建築学系の南泰裕研究室は、奥多摩町の空き家を担当。5 月 2 日の現地調査および地元自治体との意見交換をもとに検討を重ね、6 月末までにデザイン案を作成・提出する。7 月上旬の審査会で大学・東京都合同のプレゼンテーションが行われ、審査の結果、選定デザインが決定する。

◆南泰裕教授のコメント
　リノベーションは難しく大学の課題には合わないといわれていますが、社会的な需要はますます高まっていく分野です。今回はコンセプト設定、創意工夫、デザイン性、コスト面を含む実現可能性など、総合的な提案が必要となり、建築の仕事を目指す学生らにとって大変貴重な機会となります。

〈参考〉
●南泰裕教授
【南泰裕研究室の活動】
　四国や東北など、さまざまな地域における都市・建築の提案を、産学官の協働により継続的に展開。また、東京をテーマに都市空間を多元的に分析・考察しており、現在はキャンパス近隣の民家をカフェにリノベーションする取り組みを行っている。
【教員情報】
　https://www.kokushikan.ac.jp/research/researcher/minami_yasuhiro/
【南研の挑戦　ー地域住民の想いをカタチにー】
　https://www.kokushikan.ac.jp/magazines/002420.html
●東京都ホームページ
「TOKYO 空き家活用魅力発信プロジェクト」が始まります
　https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/04/2025041107

南 泰裕　教授

（現在進行中のカフェリノベーションプロジェクトの様子、詳細は上の URL「南研の挑戦」を参照）

※取材をご希望の方はお問い合わせ先までご連絡ください。デザイン案検討過程の取材のほか、大学・東京都合同のプレゼンテーション（7 月上旬）をご取材いただけます（東京都への取材申し込みが必要です）。奥多摩町の物件は法政大学もデザイン提案を行いますので、本学デザインが選定されない可能性があります。

◆本プレスリリースに関するお問い合わせ
学校法人国士舘 理事長室広報課（担当：清水・松田）　〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1
TEL:03-5481-3115 FAX:03-5481-5477　E-mail:kouhou@kokushikan.ac.jp